

2005 ワークショップ開催報告

実行委員：上田 陽一郎（松下電器）

西日本を中心に列島に甚大な被害をもたらした台風 14 号が日本海からオホーツクに抜けた秋晴れの中、恒例のワークショップが、正面に富士を仰ぐラフォーレ修善寺(静岡県田方郡)にて 9 月 8 日(木)、9 日(金)に開催されました。本ワークショップは、エレクトロニクス実装学会の重要行事の一つであり、実装材料・パッケージ・設計解析・光実装・デジタル機器など、実装分野全般にわたる発表をポスター形式で行います。1泊2日の宿泊を通して参加者全員が技術的かつ人的な交流を深め、「実装技術に関わる参加者すべてが、人間的なふれあいを通して本音で議論し合い、双方向のディスカッションを通じて現状の課題を浮き彫りにすると共に、その克服に向けての斬新なアイデアやヒントを得る」ことを目的に、毎年 9 月の第 1 木・金曜日に開催されています。そのために、遠隔地ではありますが環境抜群のラフォーレ修善寺を開催地として選び、宿泊を基本とし、ノースーツ/ノーネクタイ/撮影録音禁止をルールに定めています。



さて、今回のメインテーマは「グローバル競争を勝ち抜く先進実装技術」、サブテーマは「新商品開発力を高める革新技術を探る」であり、グローバルで熾烈な競争に晒されてい

る日本のエレクトロニクス産業が競争に勝つために、カギとなる革新技術の発表が 34 件ありました。また、特別講演として、日産自動車の安保さんを講師にお迎えし、エレクトロニクス化が進展する自動車メーカーの視点から講演を行っていただきました。

初日の朝は 10 時 30 分からの登録開始でした。関西方面からの参加者の便宜を考慮して例年より 30 分遅い登録開始とさせていただきます。会場には、多くの方が専用バスで 3 回に分けて到着され、初参加で少々緊張されている方々の中に、リピーターで既に雰囲気馴染んでいる方が混ざっていて、独特な雰囲気の中でオリエンテーションが始まりました。今回のワークショップの主査である山道さん（NEC）から開会の挨拶と今回のワークショップのテーマ説明、およびスケジュールやルールの確認がありました。続いて第 1 セッションへと移り、最初のアブストラクトトークでは、発表者が 3 分間の時間の中で、内容の要旨や聞いて欲しいポイント、ディスカッションしたい点などを発表されました。短い時間ではありましたが、総じて皆さん発表ポイントを適切にまとめられており、ポスター発表に期待をつなぐ内容となっていました。



昼食をはさんで午後 1 時 30 分開始のポスターセッションでは、すでに開始前から議論が始まっていて、参加者の意気込みが感じられました。この日は、先端パッケージ 4 件、光実装 3 件、接合 3 件、環境 3 件、その他 4 件の計 17 件の発表がありました。どのポスター

も人だかりができ、活発に議論を交わしたり熱心にメモを取る様子が見受けられました。今年度は、発表者の方が他の発表を十分見られるようにとクロードタイムを従来の30分から45分に延長しましたが、議論が白熱してなかなか開放してもらえない発表者の方もおられたようです。



ポスターセッション後に部屋割りが発表され、夕食の懇親会まで自由時間となりました。部屋で自己紹介をしたり、温泉で汗を流したりして、一息つかれたことと思います。夕食は立食形式であり、司会の土屋さん(東海ゴム)のスピーチ、傳田さんの挨拶から始まり、最後に畑田さんの締めによってお開きになりました。今回は登録時間を30分遅らせた関係で、食事時間が若干圧縮されたこともあり、話しに夢中になるあまり食事が余るという現象が発生してしまいました。参加者の間で交流の輪を広げることが出来たと思いますが、話と食事を十分できるように来年度は、場の状況を見て、食事の終了時間をある程度フレキシブルに設定したいと思います。



午後 8 時以降の第 2 セッションは、各部屋に討論資料を持ち込んでのフリーディスカッションです。実装技術の将来像や現状打破に向けた意見、お互いの会社の話からプライベートな話まで、夜更けまで大いに盛り上がった部屋もあったようです。

2 日目は朝食とチェックアウトを済ませ、9 時 30 分の第 3 セッション・アブストラクトトークから始まりました。一夜明けてすでに参加者同士交流が進んでいたこともあり、皆さん疲れた様子もなく、活発な議論が繰り広げられました。この日は、光実装 3 件、接合 3 件、回路基板 3 件、ナノテク 2 件、環境 2 件、その他 4 件の計 17 件の発表がありました。MEMS を中心とするナノテクノロジーから環境を意識した材料開発まで、改めて実装のカバーする技術領域の広さを実感できました。

ポスターセッション終了後の午後 2 時半より、日産自動車より安保さんをお招きしての特別講演が行われました。講演は、「自動車メーカーからみた実装技術への期待と課題」というテーマでお話いただきました。はじめに日産自動車における自動車用制御システムの歴史をご自身のご経歴とともにお話いただき、自動車ではデファクトと言われる CAN (Control Area Network) 安全に対する考え方、今後の電子制御が向かう方向などを分かりやすくご紹介いただきました。また、自動車の過酷な環境状況から実装に求められる信

頼性が大変重要であり、人命に関わる部分に携わることの大変さを改めて認識させられました。自動車に求められるエレクトロニクスの困難さ、特にその安全性の確保について、参加者全員が高い関心を持って拝聴させていただきました。

本ワークショップ終了後のアンケートでは、普段議論する機会の少ない異分野・異業種の技術者と打ち解けて話しをすることができた、情報入手が手広く出来た、といった意見がありました。当日配布された参加者全員の名詞のコピー集と合わせて、このワークショップが皆さんの今後の課題解決や新しい仕事のきっかけとなれば幸いです。また、本年度は参加者の人数が多く大盛況に終わったこともあり、帰りのバスに乗車できない方がおられたなどの不備がありましたことをお詫び申し上げますと共に、実行委員として慎重に検討し、来年以降のワークショップに有意義に反映させていきたいと思っております。

最後に、ご発表いただいた方々、ご参加いただいた方々、事務局の方々に感謝を申し上げます、本会の報告といたします。